

追補

初刷発行以降4年半の間に起こった変化等に関する補足説明です。



Section1::ダイヤと運賃に関して

「だいたいこの時間に汽車がある」というところは変わっていないのですが、午後の千ら見コースが滞在時間が28分に拡大する等、細かく時刻が変わっています。運賃も消費税アップに伴い値上げされています。必ず最新の情報を確認の上でお出かけ下さい。千ら見コース帰りの礼文駅長時間停車もなくなってますよー。

Section1::トンネル上の送風機と、トイシ脇の万力

どちらも2012年秋に解体・撤去されました。送風機のあったトンネル上には、その後雪庇防止の柵が設置されました。



Section1::駅ノートに関して

2011年夏より、プラスチックコンテナに収められた駅ノートが稼働しています。夏季は東室蘭方面ホーム駅名標の足下、冬季は北側の保線管理小屋軒下にあるハズです。設置管理者は不肖・私

こと水瀬雅美でございます。駅ノートの管理記録も<http://lavenderblue.jp/chair/kewporuoi/>にて公開しておりますのでどうぞよろしゅうに。



Section2::文太郎浜と岩屋方面の分岐に関して

「岩屋観音への道はわかるんだけど、文太郎浜へ降りる道がわかりにくい」という声。駅を出てすぐ「←岩屋観音」の看板の手前が分かれ道です。しかし右の道は夏季だと草に埋もれてわかりにくいことが多いのもまた事実・・・

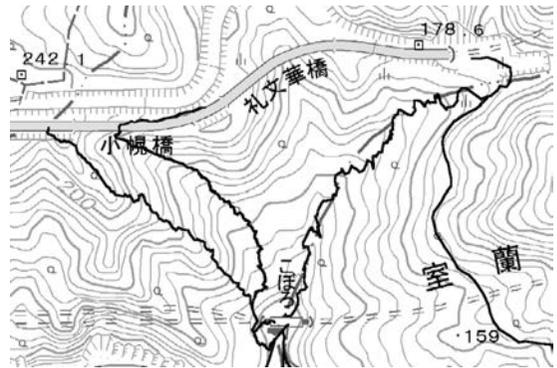


Section4::礼文華峠旧街道と「礼文華峠古道」に関して

現在では峠の東側は廃道から復活しています。同時に2011年から2014年にかけて大規模な伐採が入りました。これにより森林公園から標高200メートル付近までの徒歩ルートは不明瞭になっています。

「礼文華峠古道」は街道が整備される前の道筋を地元の郷土研究会が復活させたものだそうです。ただし、江戸末期から明治初期にかけて礼文華峠を越えた探検家達はもつと北側を歩いていたのではないかという説もあるそうで・・・

通っていたと考えられます。標高200メートル付近から上は旧現両国道の建設に伴い山を切ったり盛ったりした跡があり、「こんなところどうやって登ったんだ？」状態になってますけどね。



Section6::鳥伏信号場

初刷では「とりふ」と紹介しましたが、正しくは「とりう」です。当時はいわゆる「歴史的仮名遣い」を使用しており、「とりふ」は現代の表記に直せば「とりう」なんです。簡単に言えば騙されました。当時の文献を紐解けば読み仮名として「とりふ」という平仮名表記と共に「Toriu」というローマ字表記が併記されています。

追記::南側の保線管理小屋

2012年8~9月にかけて改築され、これまでの半分の大きさになりました。相変わらず中には入らせてくれません・・・



札 鉄 道 室 蘭	札 鉄 道 管 理 部	(長 萬 部)		従 長 萬 部		
		旭濱信号場	あさひはま Asahihama	5.3	5.3	
	静	狩 しづがり Shizukari	5.3	10.6	隣坂園	
	札	小幌信号場	こぼろ Koboro	6.9	17.5	
	鉄	鳥伏信号場	とりふ Toriu	3.1	20.6	
	道	證	文れぶん Rebun	3.0	23.6	同 蛇
	室	大	岸おほきし Ōkishi	4.1	27.7	同 同
	蘭	豊住信号場	とよずみ Toyozumi	3.2	30.9	

運輸省鉄道総局「鉄道停車場一覧 昭和二十一年三月三十一日現在」より

追記::熊が出るって本当？

一部で駅に熊（ヒグマ）が出ると評判になっていますが、駅にはまず出ません。

むしろカラスの襲来に注意すべきで、実際に多くの被害が報告されています。以前は繁殖期にちょっとやって来る程度だったのですが、近年は夏だろつが冬だろつが駅に飛来し、荷物を置いたまま離ればたちまち荒らされます。ジッパーは開けるし紐は引つ張るし、食糧など出てこようものならそれはそれは悲惨な目に遭うでしょう。

Section8::「もうひとつの可能性」

踏破できました。後掲の地図の通りです。沢の中ではなく、東寄りの平尾根を辿ります。直登ルートとしては最も楽なコースです。それらしき跡は全くと言っていいほど残っていませんが、かつて存在した駅と街道を結ぶ道もこの平尾根を

なお、駅のある「幌内の谷」という意味では熊は出ます。ついでに国道と砂防ダムを結ぶ林道の一部は熊の通り道になっています。間違いなく、目撃例がないことから晴れた日の昼間に鉢合わせする可能性はほぼないでしょうが・・・



2013年秋、駅北東側約300mの山中にて

追記::最速ショートカットルート

「小幌駅ノート管理記録」に2015年より登場するショートカットルート。以前より冬場に探索を進めていたのですが、夏は通れないし冬場はもっと良い道があるし・・・というところでした。ところがとある意欲的な方が藪を刈り払い、少なくとも2015年夏は通れるようになっていました。20分で駅と国道を往還できる素敵なルートなんですが、濡れる上に足場が悪く本書の紹介ポリシーでは「通行不能」にあたるためここでの紹介は控えさせていただきます。いずれ機会があれば。

追記::小幌駅廃止に関して

本稿執筆時点（2015年8月）ではJRからの発表はありませんが、2015年10月に駅を廃止する旨、地元・豊浦町に通告があったそうです。敢えて「打診」とは書きません。

洞爺湖有珠山ジオパークの一角を成し、歴史的にも貴重な岩屋の洞窟周辺へのアクセス手段として欠かすことのできない小幌駅の存続を、豊浦町は求める姿勢でいます。

町によれば「観光振興策をまとめているところだった」とのこと。後出しじゃんけんではないか等々いろいろ言われていますが、豊浦町教育委員会の主催による散策会や、観光会社のバスツアーは毎年来てるんですよ。釣り人も多くやってくるし、JRの主張するような「鉄道マニアのための駅」ではないことは客をきちんと見ていればわかるハズなんですが・・・

それを抜きにしても収益よりも維持費の方がかかるのはおそらく事実。それならそうと事実だけを発表すればいいのに、何故わざわざ敵を作るようなことを公式の場で口走りますかねと。まったくあの社長は・・・という愚痴はさておき。「保線管理のために残されている駅である」という通説をあたしは一貫して否定してきましたが、それをこんなカタチで証明されるとは。ねえ。

毎年のように駅の旅客設備が更新され、投資されている事実から当面潰す気はないものと思っていたため、廃止の報には正直驚きました。JR-H首脳部でそのあたりをひっくり返す動きがあったという噂もあります。

夏休み期間中は毎年多くの方が訪れるのですが、廃止騒ぎのおかげで2015年夏はより多くの方が訪れています。人が増えればそれまでは見て見ぬ振りをされていたことも看過できなくなることもあるわけで、駅には無料な警告看板が出たり、ロープが張られたり、保線員が見張りに立つようになったりしています。本書で紹介している場所の一部も立ち入りが規制されてしまいました。



あとがき（第2刷によせて）

早いもので Preview 版から5年半、完全版と称して世に送り出した「礼文華観光案内」初刷から4年半が経ちました。

いろいろありました。

鉄道ファンに向けて筆を執ったハズなのにそっち方面の人々にはいまひとつウケず。

「どうせこれからも幌内の谷には頻繁に通うのだし」と始めた小幌の駅ノートは設置したその日のうちに偶然やってきた地元・礼文華地区の人々の目に触れ、コンテナと一緒に入っていた本書は「なんじゃこりやあ！」と騒ぎになったとか。

その後は豊浦町の教育委員会やら町長室やらに持ち込まれたとか、長万部町の観光案内所に「この本はどこで手に入るのか」なんて問い合わせが行ったとかで、両町の関係者もぶつ飛んだとか。平身低頭するしかございません。

駅もいろいろ変わりました。

消えたものとしてはトイレの換気塔が倒れ、右側の個室のドアは壊れて外されてしまいました。トイレ脇の万力は撤去され、トンネル上の送風機は解体撤去されてしまいました。

新しく登場したものとしては北側保線管理小屋の軒下にスピーカーが設置されました。列車の遅れなどがあったときに（周辺駅にも流れる共通のものですが）報せてくれます。新礼文華山トンネル上には雪庇防止の柵が登場し、トンネルポータルに入ったクラックの補強と思しき工事も為されています。

古いものから新しいものへ。南側の保線管理小屋が改築され、綺麗になりました。長万部方面行きホームは床板に穴が空いていたのが修理され、駅名標も新しくなりました。加えて両ホームとも柵などの塗り直しがされています。岩屋観音方面への案内標識も雪で倒れ、現在は新しい標識に変

わっています。列車の接近を報せる警報機もLED表示の新しいものになりました。ホーム上の列車時刻表はプラスチック板のものから、大判プリンタで出力したポスターのようなものになっています。そのほか細かいところではドブ板が新しくなったり、レールが交換されたり、トンネル内壁に補強が入ったり・・・

美利加浜方面への道が大雨で崩れたり、岩屋方面への道が倒木で何度か通れなくなったり。それまでは全く見なかった熊の影が当たり前に見られるようになったり、以前は繁殖期くらいにしか出没しなかったカラスが年中襲来するようになって迂闊に荷物をデポっておけなくなってしまうたり。

称賛と、応援と、そして「小幌ガール」ほかの称号を頂きました。本書初刷を上梓したときに「まだ見ぬ」であったものは、概ね踏破し知ることができたと思っています。しかし知れば知るほどわからないことが増えていくのが研究者気質。あたしの小幌駅周辺探索ははまだ終わるところを知りません。いずれ探索の結果をまとめた改訂版を執筆する予定ではあったのですが、突然の駅廃止の報に注目を浴び、現版増刷の要を突きつけられ、かといって古い内容のまま刷るのもどうか・・・というわけで4ページの追補を加筆した「ちよいプラス」版としてこの度、世に送り出すことになりました。

これからどうなるのか。本当に廃止されるのか。覆るのか。現時点では何とも言えない状況です。駅に何かあっても訪ねてくる人はいるでしょうし、駅ノートも可能な限り続けていきます。何よりもあたしの探索はまだ終わっていません。

貴方に辿り着く足があるなら。いずれ小幌駅を抱く礼文華の山中でお会いしましょう。

2015年 礼文華の夏が終わる頃

水瀬雅美 拝